

報 文

精英樹県下益城1号を活用した花粉症対策への取り組み^{*1}草野僚一^{*2}・園田美和^{*3}

I. はじめに

精英樹県下益城1号（以下「県下益城1号」）は、熊本県内の2022年度のスギ苗木生産本数のうち、64.1%を占めているスギさし木在来品種「シャカイン」（原産地 旧熊本県八代郡泉村）の中から選抜された精英樹（選抜地 旧熊本県下益城郡砥用町）で、シャカインのメジャークローンI型と同一と考えられる（草野ほか、2006）。熊本県の記録によると、1994年に追加選抜された精英樹であり、次代検定林には植栽されていないため、かつては特性が不明とされていたが、その後の調査により高い通直性、完満率、ヤング率を持つ品種ということが報告されている（熊本県林業研究指導所、2010）。また、次代検定林に植栽されていないため雄花着花性による調査がなされていない（林野庁、2001）。

苗木生産者や造林者から人気が高く、シャカイン由来の花粉症対策品種の開発を求められたことから、熊本県では県下益城1号の雄花着花性について調査を進め、2016年に低花粉品種に指定している。これらを踏まえ、今後ますます重要になると考えられる花粉症対策のための苗木増産を進めるにあたり、熊本県が行っている県下益城1号を活用した花粉症対策の取り組みを報告する。

II. 取り組みの背景と概要

熊本県では、2011年に苗木生産者が保有するシャカイン採穂母樹について、DNA型を確認し、県下益城1号のみの指定採穂源とする取り組みを行っていたが、その後頓挫している。一方で、熊本県林業研究・研修センターが保有する採穂母樹について、DNA型の確認を進め、2020年度には熊本県で実施する全ての育苗試験で、県下益城1号の穂木を使用することができるようになった。これを受けて、2023年4月に熊本県として、試験終了後の苗木を有効活用することを決定し、2023年9月28日に、熊本県の林業用種苗の主管課である熊本県農林水産部森林局森林整備課が主体となり、県内苗木生産者に対して県下益城1号の採穂用母樹として苗木1,000本を有償配布した（図-1）。配布した苗木については、植栽を確認後、指定母樹園として指定予定である。今後とも、熊本県林業研究・研修センターの試験内容と苗木生産能力を勘案しながらではあるが、県下益城1号の生産体制が整うまで苗木の有償配布を行うこととしている。

また、併せて、2018年から県下益城1号をスギ花粉発生源対



図-1. 配布した苗木の状況

策推進方針（林野庁、2023）に基づく花粉の少ない品種認定のための調査を開始しており、同時に進めている県下益城1号を母樹とした熊本県独自の交配家系の創出と併せて、加速度的にスギ花粉症対策品種の生産体制を整えることとしている。

III. 謝辞

本取り組みでは、熊本県農林水産部森林局森林整備課職員の皆様、特に永山課長補佐、中西主幹にご尽力いただいた。また、熊本県林業研究・研修センター職員の皆様、特に堀技師、渡邊技師、赤峰氏、北川氏にご尽力いただいた。森林総合研究所林木育種センター九州育種場からは、さし木やクローン同定の技術的支援を受けた。厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 熊本県林業研究指導所（2010）シャカイン・アヤスギ特性表，熊本県，熊本
 草野僚一ほか（2006）日林誌 88.169-173
 林野庁（2001）平成12年度雄花着花性に関する調査報告書，224 pp，社団法人林木育種協会，東京
 林野庁（2023）スギ花粉発生源対策推進方針
 （2023年11月10日受付；2023年12月18日受理）

^{*1} Kusano, R., Sonoda, M.: Efforts to hay fever using the plus-tree "Kenshimomashiki No. 1"

^{*2} 熊本県林業研究・研修センター Kumamoto prefecture Forestry Research and Instruction Center, Kumamoto 860-0862, Japan

^{*3} 熊本県県北広域本部 Kumamoto prefecture Northern Kumamoto Administrative Headquarters 861-1331, Japan